

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 330

事業名	老人大学ちどり学園補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 -44 - 3005		項	社会福祉費・1項	
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	老人福祉費・3目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_【健康】			
	施策目標	高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)				
		老人大学ちどり学園(南あわじ市老人クラブ連合会西淡支部会員)	構成人数(人)	134		
	実施内容	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)				
		老人クラブ西淡支部会員の相互親睦を図り、地域での指導者として、生きがいのある生活基盤づくりをする。				
	団体の概要	(主な事業、活動内容等)				
		毎月1回一般教養講座及び各種クラブ活動を開設。				
	補助金算出根拠	(どのような団体か、活動目的、活動内容など)				
生きがいのある充実した生涯学習を送る。						
補助交付期間	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 旧町単位 (西淡総合窓口)	<input type="checkbox"/> 旧村単位 ()
	事業費の一部経費					
合併協議事務調整内容	補助交付期間 <input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし					
	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 継続事業。						

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インプット	直接事務費 (千円)	225	225	225	225
	老人大学ちどり学園補助金	225	225	225	225
	事務局事務費(市が事務局の場合)				
	財 源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	225	225	225	225
	人件費(正規職員)[B] (千円)	92	90	90	90
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)	3	3	3	3
	事業量2(事業に要した人数)	1	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	317	315	315	315
「構成人数」一人当り経費 (千円)	2.4	2.3	2.4	2.4	
受益者人数(134)一人当り経費(千円)	2.4	2.3	2.4	2.4	
経費に関する 補足説明					

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 老人クラブ西淡支部活動の独自の教養講座であるが、事業の内容からみると適当である。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市の高齢者教養講座事業として老人大学うずしお学園を開設運営しているの、同等の高齢者大学は別に開設する必要性は低い。	自己評価 (5点評価)
		2
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 地域の指導者を養成し、高齢者の生きがいのある生活を構築していく目的は市の老人大学うずしお学園と同調するため、同一化することで対応は可能であると考え。	<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	平成20年度は現状維持とし、老人大学の平成21年度統合化に向けて調整を図る。	老人大学の統合化を図る。
(現状維持以外の改善方法)		老人大学うずしお学園に集約する。
改善によって期待される効果		集約することにより、うずしお学園の充実が図れるとともに、経費の削減が期待できる。
(現状維持の場合も記入)	仮に 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 支部単位の老人大学であり、市単位の老人大学に集約することで混乱はないと考える。ただ、交通距離が遠くなることでコミュニティバスなどの充実や方法を考えていく必要はある。	